

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3390200602		
法人名	社会福祉法人 四ツ葉会		
事業所名	グループホームげんきむら		
所在地	岡山県倉敷市中庄2960-1		
自己評価作成日	平成30年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200602-008&amp;PrefCd=33&amp;Versi">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200602-008&amp;PrefCd=33&amp;Versi</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成30年2月20日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

法人の中でユマニチュードの研修を行い、声かけへの配慮や目線、スキンシップなど丁寧な対応を心掛けています。  
看取りへの取り組みや膀胱瘻や脳梗塞による麻痺のある方など他施設の専門職と連携しながらサービスをしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

今年度、開設以来初めての看取りを経験した。重度化した場合や医療が必要となったケースはこれまで法人の特養等への入所や病院に入院していたが、「このホームで最期まで」という家族の強い希望で、1ヶ月ほど前に家族の立ち会いの下で老衰による穏やかな最期を見送った。職員間で看取りの方針を話し合い、心構えをして終末期ケアに取り組んだ。何事にも初体験の出来事は職員の心にも葛藤を生んだが、これからのグループホームの有り方を考えると、「看取り」の問題は避けて通れない方向性にあるので、自信にもつながり貴重な経験となったと管理者から聞いた。1年間に5名の利用者が入れ替わり、軽度の人が増えた分、現在は全体的に落ち着いている状況である。管理者と職員達が力を合わせ書類の整備を進めてきた成果をフェイスシートその他の記録類の中に見る事が出来た。ユマニチュードの姿勢も日々のケアにしっかり根付いていきつつある。今後益々楽しいホームだと思う。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	楽しい中にも心身の状態が向上していくような生活を創る。利用者が楽しみながら日々を送りかつ現状を維持、向上できるようにサービスを考えながら実行する。	全職員に配布されている「理念」と「元気を創る為の行動基準5項目」が掲載された法人のハンドブックを改めて見直し、今年度は「理念」と「ユマニチュード」の研修を重点的に行なった。職員間で共有し、介護現場でユマニチュードを意識しながら日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の食堂は引き続き継続出来ているがボランティアの方が入るようなイベントは上半期にして以来できていない。いきいきポイントは登録したので今後も受け入れ等をしっかりしていきたい。	昨年から始めた月1回の「元気食堂」は定着化に向けて引き続き取り組んでおり、小学生や地域の人との交流もある。「倉敷市いきいきポイント」の受入申請をしたので、今年は「落語」のボランティアが来てくれる予定と聞いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して地域の方に伝えていったり、町内会の会議やイベントに参加し、事業所の存在を地域に広めて行っています。元気食堂という小学生対象の行事を月に一回しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括センター職員、他事業所職員、介護保険課職員や利用者などの皆様に参加して頂き地域の情報や当施設の状況を報告などしながらサービス向上に努めています。実地指導の指導もあり他施設の方にも参加をおねがしていきます。	2ヶ月に1回、複合型介護施設げんきむら内のオープンテラスで、GH・小規模・サテライト合同で運営推進会議を開催している。ホームの活動報告や運営状況の他に、会議の中でGHでの看取りの話が出て説明をしたり、事故等のリスク面の報告をしている。	3事業所合同の会議をし、それぞれの運営状況を話し合っているが、家族の参加が得られていないので、案内を出して呼びかける等の工夫をもっと欲しい。また、参加者との意見交換の記録がないので議事録に残して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事故の報告や書類の事など担当の方に話を聞きに行ったり、市の開催する説明会などに積極的に参加しています。	市主催の「小地域ケア会議」に参加して連携を取り合っている。先日あった市の実地指導では災害時のマニュアル作成の件で行政指導があった。何かあれば市の担当者に相談しながらホーム運営に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフを対象に研修をしたり、もし困難事例が起きても意見交換して他の方法を模索しています。どうしても厳しい時は家族に許可をとり、記録に残し、とりあえずの期間のみ行うようにし、対策を練る様になっています。	身体拘束をしないケアを実践しているが、離棟していた利用者を法人の他事業所の職員が保護してくれた事もあり、それ以降は見守りを徹底している。帰宅願望のある人でも、しっかり話をすれば納得して落ち着いてくれる事もあり、その人に合った対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体のチェックはしっかりと行い、言葉使いや介助の方法など皆で話し合いながら防止に努めています。新たにユマニチュードの考え方を取り入れようとしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今回はキーパーソンの急な入院で急遽入居された方が後見人の方が付いておりいろいろと相談しながら、体調の戻った身内の方ともしっかり話し合いながらサービスに取り組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする時には十分に説明を行い、その時に不明な点等はいつでも連絡をして頂けるよう配慮するようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望はスタッフでしっかり共有し、ノートや会議を通して改善、向上に努めています。 外部へはホームページを用いて発表しています。	年2回GH・小規模・デイ合同の家族会を開催し、幅広く家族間の親睦と交流を図っている。家族からのリハビリの要望を受け理学療法士による機能訓練を開始した例もある。面会時には状況報告をしてよく話し合い、必要に応じて電話等で連絡を取り合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度はユニット会議のみ、毎月行っています。スタッフには夜勤の明けの日や休みの日にも出てもらいしっかりした会議を行っています。 個別の面談も行いキャリアアップに努めています。	昨年各ユニットの会議には法人の理事長の参加もあり、職員と意見交換をしながら適切なアドバイスをもらえる。GHは中途採用が多く、職員の年齢層も幅広いので、人生経験豊かな職員の存在は利用者とのコミュニケーションにも役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの希望を聞きながら今のところは問題なく就労してもらっています。イベントや外出などではスタッフ皆で協力し労働時間を調整しながら働いてもらっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修や社外の研修などで習ったことを活かしながら指導を行い。職員にも外部研修など良いものがあれば出席してもらう事もあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に出席するようになり色々な事例等聞く機会が増えたのでいい勉強をさせて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前には、本人と面会して要望や不安などしっかりと傾聴し、安心して過ごして頂けるように説明を行なう。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の契約の説明や重要事項の説明時に家族の要望や不安などを傾聴し、入所後も遠慮なく相談いただけるように説明をしています。いつでも訪問や見学に来て頂けるように声掛けや環境整備に心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望に関してはスタッフと共に情報を共有しながらサービスを行い、気付いたことや新しい試みの提案があれば家族に相談しながら取り組んでいます。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が可能な範囲で役割(掃除、おぼん拭き、洗濯物たたみ等)を持って実践し、お互いに感謝し合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出、病院受診などスタッフと家族が協力しながら本人を支えるように努めています。皆さん1～2週に一度は面会に来て頂いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方が良く面会に来て下さいます。近所の人や知り合いの方が来られた時にはいつでも来て下さいとしっかりと伝えています。	最近階下にある小規模多機能ホームの利用者がGHに入所してくるケースが多く、この1年間でも数名いる。両事業所を兼務している管理者とも顔馴染みの関係であり、利用者も環境に馴染みやすい。週末には家族と自宅に帰る人もいるので、家族との絆をしっかりと支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良好な関係が築けるように会話の仲介をしたりもしています。外出やレクリエーションを通じて喜びや楽しみを分かち合えるようにして支援しています。しかし、利用者同士の体調により差が大きくなりつつあり、その事を否定的に発言する利用者もいるのでそこにはスタッフがフォローを入れるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	連絡を下さる家族もおられるが、途中でサービス終了という方もほとんどいない為、関係が終わる事のほうが多いです。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に沿った対応が出来るよう要望を把握し、好みの時間に合わせて支援を行っている。細やかな声かけを行い、新しい要望や思いが出てくるように努めています。	日頃の関わりの中で一人ひとりの思いや希望を聞くようにしているが、お風呂のない日には、散歩に出かけ利用者と一緒に話をしてコミュニケーションを取るよう努めている。言葉が出にくい人にはアイコンタクトをして意思疎通を図り、表情やしぐさから汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に情報を聞きながら、その方に最適なサービスを出来るように努めています。状態によりそのまま実行できない事もありますが、しっかりと関わりもちながら新しいことに取り組んだりもしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的にモニタリングを行い少しずつ出来なくなっていることに対し少しでも不安を取り除く事ができるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状況を職員間でしっかり共有するようし、臨機応変に努めるようし、月々のカンファレンスなどで確認し合いながら計画作成を行っています。身体介助等法人内の専門職に協力をあおぐこともあります。	利用者・家族の意向を基にして、日々の心身の状況を職員間で話し合い現状に即したケアプランを作成している。モニタリングを3ヶ月毎に行ない、実践状況を確認している。昨年からの利用者の基本情報(フェイスシート)を更新し、書類の整備をして情報の共有に取り組んでいる。	フェイスシートを職員間で共有できるように整備し直し、その人の人生歴を把握してプランの目標や支援内容につなげようと取り組んでいるので、引き続き得た情報やアセスメントを追記して行って下さい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の細かな変化には早く気付くようし、申し送りや連絡ノートで情報共有出来るようにしている。また、責任者にもすぐに報告し、全スタッフが共有できるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ、職員間や専門職、看護師、医師の方と連携しながら、ニーズに対応出来るよう努めている。法人内の他事業所の方にも意見をもらったりもしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアのかたの協力を仰いだり、お祭りなどのイベントで他部署と交流したりしながら楽しんでもらっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関やその他専門機関と連携を図っている。本人、家族の希望があれば今までのかかりつけ医を継続して受診している。	従来のかかりつけ医を継続受診している人、ホームの協力医を主治医としている人等、それぞれであるが定期的な往診もあり、医療機関ともよく連携が出来ているので、重度化している利用者にとっても安心して生活出来ている。歯科往診の利用もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師の配置があり、バイタルサインの異常、入浴時の身体観察、病状の変化等は看護師へ必ず報告し指示を受けて対応している。複合施設という事もあり他部署の看護師にも協力をお願いすることもあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は定期的に医療機関へ訪問や電話をし、家族、関係者と連絡を取っている。早期に退院して受け入れが出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、重度化した際の説明をしている。本人や家族と話し合いをし、重度化した場合や終末期の援助を行う体制が出来よう医師とも関係をつくっている。今年度は実際に看取る事も出来ました。	開設して以来、初めての看取りを経験した。「ホームで最期を」という家族の希望に添って、日中家族が傍で見守る中、スーと眠るように最期を迎える事が出来た。職員にとっても初体験であり、心の葛藤はあったが貴重な経験になった。現在もターミナルで様子を見ている人があり、職員間で看取りの方針を話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的に行っていないが、その都度の対応時には指導しながら行っている。管理者、看護師には迅速に連絡が取れて指示が出るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間の想定をして防災訓練を実施している。運営推進会議にて地域の方と情報共有し協力体制を整えられるように努めている。全職員が対応できるようにする。	複合型介護施設内の事業所と合同で毎年避難訓練を実施している。今回、市から災害時のマニュアルの整備について指導があった。マニュアルの作成と共に、地震・水害・風水害等の災害発生時の避難ルートの確認も検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユマニチュードの考え方を取り入れたりしながら声をかける前段階から相手の目線に入ることなどその方とのコミュニケーションがスムーズにはいれるように配慮しています。	今年度からユマニチュードを活用し、全職員で日々のケアに取り組んでいる。言葉遣いは丁寧で、目線を合わせながらコミュニケーションを取っている。利用者間のトラブルにも気を配り、自尊心を傷つけないように職員が仲裁し、言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その場その場で選択できるようにしている。飲みたい物などは複数の選択肢を提案して自分で決められるよう促している。また、スタッフが必ず本人の許可を得てから行動をおこすように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが本人の意見を聞きながら柔軟に対応し、体調や希望に沿った生活を支援している。訴えの無い方や少ない方にも良く観察をして少しでも本人の気持ちに寄り添えるように取り組んでいます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装の自己決定が出来ない利用者には、職員と一緒に選んだりアドバイスをしている。月に1回の訪問理美容を利用し、散髪、毛染め、パーマ等をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	口腔体操や散歩などして食事をおいしく食べられるようにサービスしています。おやつ作りなどイベントをしていつもと違う雰囲気を感じてもらえる様にも取り組んでいます。	複合型介護施設の1階の厨房からエレベーターで2階のGHへ料理が運ばれてくる。副菜は一人ひとりの食事形態に合わせ職員が刻み等にして提供しているが、昼食メニューに汁物がないからと急遽職員がスープを作り付け足す等の気配りをしている。食事介助の必要な人もいるが殆どの方は自分の箸で食べていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量をしっかり確保している。医師や管理栄養士に相談し、疾患のある利用者は食事のカロリーや水分量を制限している。食事の形態や大きさなど現場でも気をつけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に自立の利用者は声かけし、出来ない利用者はケアを行っている。義歯の管理は、個々の状態に応じて訪問歯科等を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握に努めて、個々でのトイレ誘導や声かけの時間を設定して、トイレでの排泄が行えるようにしている。落ち着いてゆっくり出来るようにしている。	布パンツで排泄が自立の人も数名いるが、ターミナルで紙パンツ使用の人以外は殆どハビリパンツにパットという組み合わせで対応している。全員、トイレで排泄をしており、ポータブルトイレの使用は無い。個々の排泄リズムを見ながら声かけ誘導をして自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食物繊維の摂取を促したり、体操や散歩等適度の運動をしていただけるようにしている。適宜ヨーグルトやヤクルトなどいろいろ試したりもしています。薬については日々の状態を医師に報告し調整しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理には行わず、本人の希望に添えるようにしている。時間を変更したり曜日変更をしている。声のかけ方にも注意し、気持ちよく入浴できるように環境を整えています。入浴剤や季節により菖蒲やゆずを使用しています。	入浴は週3回を基本としているが、体調やその日の気分によって柔軟に対応している。シャワー浴は数名であり、ターミナル期の方は二人介助で入浴してもらっている。浴室は温度差のないようにシャワーで床を暖めたり、脱衣場は床暖房で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にしっかり関わり、夜間の睡眠が心地よくなるように努める。夜間は不安になり眠れない方もいるので話しをしたりして関わるようにしています。日中の様子を見たり、本人の体調も気にしながら昼寝等してもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書の一覧を個々にファイリングして、常に確認出来るようにしている。服薬確認も、職員同士で2重チェックを行い、確実に服用出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて、洗濯物たたみ、おぼん拭き、タオルたたみ等していただいている。個々に役割が持てるように支援している。また、装飾品や習字やぬり絵などにも取り組み、達成感を味わってもらえるように企画などします。脳トレなどもスタッフと行う事で達成感もあるようです。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へ散歩に出たり、ベランダに出て日光浴や外の空気を吸っている。家族との外出が出来るように声をかけている。また、シフトを調整しいつもは行かない所にも行けるように企画、実践しています。	高齢化や重度化が進み外出支援が思うように実践出来ていないが、出来る限り外出の機会を増やし、しっかり散歩に連れ出したり、気分転換の為に階下の小規模やデイサービスに行くこともある。初詣・花見・紅葉見学・母の日等にドライブや外食を楽しみ、家族の協力も得られている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の中で、現在は使用する機会がすくないが、家族に了承を得ている方は買い物などに出かけ、好みのもを購入したりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の協力を得て、本人の希望があれば、電話や手紙の投函が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同スペースは日当たりがよく、居心地よく過ごしている。装飾品や作品なども掲示し楽しんで頂けるようにしている。	GHは複合型介護施設の2階にあり、両ユニットの中間にある共有スペースには7段飾りのお雛様や花が飾られ季節感が溢れている。利用者はお互いのユニットを行き来しながら、リハビリにも励んでいた。広いベランダには椅子が並べられ日光浴や外気浴がいつでも楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダやテラス、中央の和室など常に明るく開放的なので利用者が自由にユニット間を移動しています。介護度のおもい方はスタッフが気分転換で座る場所をかえたり、テラスやベランダに出る様にしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みのあるタンス等を持ってきていただいている。家族の協力を得て、写真等の大切な物を持ってきていただいている。	大きく引き伸ばしたひ孫の写真を壁にたくさん貼って、いつも眺めている人の部屋にお邪魔して家族の話聞かせてもらった。自室で編み物に熱中している人は、今着ている服も自分の手編みだと教えてくれた。どの部屋も家族の愛情が感じられるその人その人に合った居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人のできることを、わかることをしっかり把握し本人が困らない様に支援して支えています。必要に応じて福祉用具を用意したり、専門職に良い方法がないか提案したりしながら対応しています。		